

IEA 石油市場レポートの概要（2017年9月13日公表）
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 世界の石油需要は、2017年第2四半期に前年比230万バレル/日増と、とても力強い増加となった（2.4%増）。2017年についてのIEAの需要増加見通しを160万バレル/日分、上方修正した。OECD加盟国の需要増加は、引き続き予測より力強い（特に欧州）が、米国の2つのハリケーンは米国の2017年第3四半期の石油需要増加を減速させると見込まれる。
2. 世界の石油供給は、主に非OPEC加盟国での計画外停止や定期メンテナンスによって、8月に72万バレル/日減少した。この4か月で初となるこの減少により、石油供給量は9,770万バレル/日となった。前年と比べた供給量は、非OPEC加盟国のゆっくりとした持続的な増加により120万バレル/日増加した。
3. OPEC加盟国の石油供給は、リビアでの騒動の再開による供給途絶や他の国の産出減少により、8月にこの5か月で最初の減少となった。OPEC加盟国の供給量は、2017年の最高値から21万バレル/日減少して、3,267万バレル/日となった。OPECの協定に拘束される12カ国の遵守率は、7月に75%から82%に向上した（年を通じた遵守率は86%）。
4. OECD加盟国の商業在庫は、通常増加する時期である7月に30.16億バレルと横ばいだった。過去5か年平均からの超過は1.9億バレルに減少した。OECD加盟国の石油製品の在庫は、7月末に5か年平均よりわずかに3,500万バレル上回っていたが、ハリケーン・ハーヴィーの影響により近いうちに減少するかもしれない。
5. 原油の価格指標は、原油需要の高まりやリビアの供給停止により、8月に1～3ドル/バレル上昇した。北米の原油の価格は世界の指標価格より低く、8月末のハリケーン・ハーヴィーはその差を広げた。ディーゼルやガソリンの価格は上昇した。
6. 2017年の第3四半期の石油精製量の見通しについては、ハリケーン・ハーヴィーの影響により、70万バレル/日分、下方改訂した。これにより、世界の石油精製製品の供給不足が2四半期連続することになる。第4四半期の精製量は、石油製品市場がひっ迫する中で高い利益率に反応し、8,090万バレル/日という記録的な水準に達するだろう。